

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース（修士課程）

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>保健医療、福祉、教育領域等の臨床心理現場における基本的な実践力と臨床心理学の基礎研究力を養成する。それにあたっては、学士レベルでは体験できなかったフィールドにおける実習を重視する。さらに、現代社会の抱えるさまざまな問題についての臨床心理学の研究を遂行できる能力を身につける。</p> <p>以上の教育の目的を達成し、所定の課程修了要件を満たした者に、履修した科目および研究テーマに応じて、修士（心理学）または修士（人間環境学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<p>公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士受験資格に関する大学院指定運用内規」、文部科学省初等中等教育局・厚生労働省社会・援護局「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」、日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準心理学分野（2014年）」に準拠</p>
学修目標	<p>A. 主体性・協働</p> <p>A-1. （主体性）豊かな教養と幅広い臨床心理学の専門的知識を基盤として、専門的技法と研究方法の主体的な選択と批判的検討の過程を自ら進めることができる。</p> <p>A-2. （協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることことができる。</p> <p>B. 知識・理解</p> <p>B-1. 一生涯にわたる心理的問題・危機についての知識を身につけ、それぞれの解決方法について理解する。</p> <p>B-2. 保健医療、福祉、教育等の各領域における心理支援やそれに関係する法律、制度についての知識を身につけ、それぞれの解決方法について理解する。</p> <p>B-3. 臨床心理学研究の基礎的な研究手法についての知識を身につける。</p> <p>C. 技能</p> <p>C-1-1. （適用・分析）各領域における臨床事例について、適切な心理支援を行うために、心理検査等のアセスメントを実施し、データに基づく論理的な分析を行うことができる。</p> <p>C-1-2. 支援を必要とする子ども・成人とその関係者に対してアセスメントに基づく心理支援を行うことができる。</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>C-1-3. 心理・社会的なテーマに対する調査、実験、臨床的アプローチを可能にする専門的スキルを十分に活用し、インフォームド・コンセント等の研究倫理に配慮しつつ、データを適切に収集・解析できる。</p> <p>C-2-1. (評価・創造) 分析結果や解析したデータと社会・文化・歴史的背景を照合し、適切かつ創造的な解釈・考察ができる。</p> <p>C-2-2. 分析・解釈によって得られた知見を事例報告書、学術論文として作成することができる。</p> <p>D. 実践</p> <p>D-1. 演習・実習を通して人の様々な生き方に対する想像性、共感的態度、倫理観を形成し、豊かな表現能力およびコミュニケーション能力を活かして、協働して問題解決にあたることができる。</p> <p>D-2. さまざまな問題を抱える現代社会に、臨床心理学の研究を通して知識や技能の還元ができる。</p>
--	---

2. 新カリキュラム・ポリシー

臨床心理学の知識や臨床心理学的技法を習得するとともに人格および行動の変容や人間の生涯にわたる発達や適応を促進することができることを目指す人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース修士課程では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

臨床心理学研究の方法に関する科目や臨床心理学の知識・理解を深めるための科目を配置し、想像的・批判的に問題を吟味する力の育成や一生涯にわたる心理的問題や保健医療、福祉、教育といった領域に応じた多様な支援方法の教育を行う。同時に、学外施設における学外実習と人間環境学府附属総合臨床心理センター（心理教育相談部門、子ども発達相談部門、生涯発達支援部門）における学内実習を用いし、本領域の指導的立場を担う研究者の養成に向け科学的で実践的な教育を行う。また、臨床心理学の研究、臨床実践において必要な倫理教育を行う。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

当該プログラムの中で焦点化した学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを検討する。人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース長、教務委員、専任教員によって委員会を構成し、恒常的にカリキュラムの評価・検討を行う。

《アセスメント・プラン》

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

本コースにおいては、単位認定や、臨床実習内容の評価に加え、学生の学修目標 B、C-1 の達成度（臨床心理学における基礎的な知識・理解および心理支援法や心理査定法の活用力等）を経時的に測定するためのディベロップメント調査を、入学時、修士 2 年への進級時、修了時の計 3 回実施している。

修士 2 年前期において、研究経過報告の発表会を実施し、複数の教員によって学修目標 B、C-1 の達成度（心理臨床に関するテーマや方法論に関する説明力、データの収集・分析）を確認する。

修士 2 年後期において、修士論文の発表会を実施し、全教員によって学修目標 C-2、D の達成度（研究課題としての構成、協働的問題解決・倫理観・社会への還元性）の評価を行う。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	<p>本コースでは以下のような学生を求めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・心理学、臨床心理学の基礎的な知識を有しており、心理統計や心理学研究法など臨床心理学の研究に必要となる基礎学力を有している。・臨床心理学の視点から社会の諸問題に着目する能力と実践的かつ科学的な研究能力の習得を目指している。・心理臨床の現場に貢献できる問題解決力、対応能力をもつ心理専門職を志している。
入学者選抜方法との関係	<p>一般選抜・社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜では、TOEIC または TOEFL の得点、筆記試験、研究経過報告書や研究計画書によって、特に心理学、臨床心理学の基礎学力と研究に必要となる基礎学力を有しているかどうかを評価する。</p> <p>また志望理由、研究経過報告書、研究計画書を総合して、心理臨床の現場や社会全体にみられる諸問題に着目する能力、さらにそれを実践的かつ科学的に研究し、現場に貢献できる対応や問題解決を目指す姿勢を評価する。</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

部局名 人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース（博士後期課程）

1. 新ディプロマ・ポリシー

教育の目的	<p>臨床心理学における高度な知識・技能を習得し、臨床心理実践に関する教育・指導が可能である。さらに、現代社会の抱えるさまざまな問題について臨床心理学的視点からの分析が可能であり、臨床心理実践のために寄与する臨床心理学的研究を遂行できる。</p> <p>保健医療、福祉、教育領域等の臨床心理現場における高度な実践力と臨床心理実践・臨床心理学研究に関する教育・指導力を養成する。それにあたっては、修士課程レベルでは体験できなかった高度な技術を要する臨床実習・臨床研究を重視する。</p> <p>以上の教育の目的を達成し、所定の課程修了要件を満たした者に、履修した科目および研究テーマに応じて、博士（心理学）または博士（人間環境学）の学位を授与する。</p>
参照基準	<p>Scottish subject benchmark statement Clinical psychology and applied psychology (2006)、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士受験資格に関する大学院指定運用内規」、文部科学省初等中等教育局・厚生労働省社会・援護局「公認心理師法第7条第1号及び第2号に規定する公認心理師となるために必要な科目の確認について」、日本学術会議「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準心理学分野（2014年）」に準拠</p>
学修目標	<p>A. 主体性・協働</p> <p>A-1. （主体性）豊かな教養と臨床心理学の深い専門的知識を基盤として、他の実践家・研究者をリードして問題の発見をし、専門領域を超えた学際研究へのチャレンジ、社会的背景を踏まえた新たな研究領域の創出を試みることができる。</p> <p>A-2. （協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることことができる。さらにこうした交流と協働を促進する働きかけができる。</p> <p>B. 知識・理解</p> <p>B-1. （知識・理解）一生涯にわたる心理的問題・危機についての知識を身につけ、それぞれの解決方法について具体的な事例や研究知見に基づき説明することができる。</p> <p>B-2. 保健医療、福祉、教育等の各領域における心理支援やそれに関係する法律、制度についての知識を身につけ、それぞれの解決方法について具体的な事例や研究知見に基づき説明することができる。</p>

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

	<p>B-3. 臨床心理学研究の多様かつ高度な研究手法についての知識を有し、具体的な事例や研究知見に基づき説明することができる。</p> <p>C. 技能</p> <p>C-1-1. (適用・分析) 各領域における臨床事例について、適切な心理支援を行うために、高度な心理検査等のアセスメントを実施し、データに基づく論理的な分析を行うことができる。また、これらの技術を指導する能力を有する。</p> <p>C-1-2. 支援を必要とする子ども・成人とその関係者に対してアセスメントに基づく高度かつ広範な心理支援を行うことができる。また、これらの技術を指導する能力を有する。</p> <p>C-1-3. 広範かつ複雑な心理・社会的なテーマに対する調査、実験、臨床的アプローチを可能にする専門的スキルと多様な問題に対応する倫理的配慮を十分に検討する力を有し、データを適切に解析できる。</p> <p>C-2-1. (評価・創造) 分析結果や解析したデータと社会・文化・歴史的背景を照合し、適切かつ創造的な解釈・考察ができる。また、その解釈・考察を適切に説明し、指導する能力を有する。</p> <p>C-2-2. 分析・解釈によって得られた知見を事例報告書、学術論文として作成することができる。また、それらの研究知見に基づき統合的な研究課題として構成することができる。</p> <p>D. 実践</p> <p>D-1. 演習・実習を通して人の様々な生き方に対する想像性、共感的態度、倫理観を形成し、豊かな表現能力およびコミュニケーション能力を活かして、協働して問題解決にあたることができる。さらにこうした態度・感性・倫理観の涵養や協働を促進する働きかけができる。</p> <p>D-2. 他分野の研究領域と連携して、さまざまな問題を抱える現代社会に臨床心理学的知識や技能の還元ができる。</p>
--	---

2. 新カリキュラム・ポリシー

臨床心理学に関する高度の専門的知識の習得とともに、独自の研究方法を展開する能力を養成し、高等教育機関において教育・研究に従事する専門教育者を育成することを旨とする人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース博士後期課程では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、別表（カリキュラム・マップ）の通り、教育課程を編成する。

【コースワーク】

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて

高等教育機関において教育・研究に従事する臨床心理学に関する専門教育者としての研究能力・指導力の養成のために、各授業科目が構成されている。さらに人間環境学府附属総合臨床心理センター（心理教育相談部門、子ども発達相談部門、生涯発達支援部門）を用意し、本領域の指導的立場を担う研究者の養成に向け科学的で実践的な教育を行う。また、臨床心理学の研究、臨床実践、臨床指導において必要な倫理教育を行う。

【継続的なカリキュラム見直しの仕組み（内部質保証）】

当該プログラムの中で焦点化した学修目標の達成度は、以下の方針（アセスメント・プラン）に基づいて評価し、その評価結果に基づいて、授業科目の教授方法や授業科目の配置等の改善の必要がないかを検討する。人間共生システム専攻臨床心理学指導・研究コース長、教務委員、専任教員によって委員会を構成し、恒常的にカリキュラムの評価・検討を行う。

《アセスメント・プラン》

博士後期課程 2 年前期、博士後期課程 3 年前期において、研究経過報告の発表会を実施し、複数の教員によって学修目標 B、C の達成度（心理臨床に関するテーマや方法論に関する説明力、研究課題としての総合的な構成）を確認する。

博士後期課程 3 年後期において、特選題目論文発表会を実施し、全教員によって学修目標 D の達成度（協働的問題解決・倫理観・社会への還元性）の評価を行う。

3. 新アドミッション・ポリシー

求める学生像	本コースでは以下のような学生を求めている。 <ul style="list-style-type: none">・臨床心理学に関する知識や技能を有しており、臨床心理学に関する学術論文の作成する能力を有している。・高度な実践的かつ科学的な研究能力を修得し、臨床心理学領域における先導的役割を果たす研究者や教育者をめざしている。
入学者選抜方法との関係	一般選抜・外国人留学生特別選抜では、論文・研究業績、TOEIC または TOEFL の得点、研究経過及び研究計画によって、臨床心理学に関する知識や技能や学術論文の作成能力を評価する。また口述試験を通してこれらの能力の評価に加え、臨床心理学領域における先導的役割を果たす意欲を評価する。上記に加え、社会人特別選抜では、心理臨床経歴証明書によって臨床心理実践経験や知識・技能を評価する。

【別紙様式】 3 ポリシーの見直しについて